

## 手首のこっせつ

上田市立南小学校 二年 松枝 冬真

右手首のこっせつがわかった時、みんなとあそんだり、すきな体いくができなくなっちゃうかなとかなしくなって、なみだが出そうでした。おはしがもてなかつたら、食べるのもどうしようと思はいになりました。

つぎの日、ギプスをして学校に行ったら、大ぜいの友だちが

「冬真くん、どうしたの。」

「だいじょうぶ。」

とやさしく声をかけてくれました。休み時間、友だちが校ていや体いくかん、プレーコートにあそびに行くところを見ると、

「いいな。ぼくもやりたいな。」

とうらやましくなりました。きゆう食当ばんのしごとは、みんながかわりにやってくれました。そうじの時は、ぞうきんをしぼるのを友だちがやってくれました。ぼくは、かた手でぞうきんがけをしたり、ほうきをやったりしてできることはしようががんばりました。友だちは、そんなぼくを心ばいして、

「む理をしなくていいよ。」

と言ってくれました。そうじがおわると、いつもそう太くんがきて、けがをしていない左手に、せっけんをつけて、あらってくれました。ぼくはすぐくうれしくて、

「そう太くん、ありがとう。」

と心をこめて言いました。そう太くんは、

「はいよ。」

と言っていました。このほかにもクラスの友だちは、いろいろなことを手つだってくれたりぼくをはげましたりしてくれました。

こっせつがなおったらぼくは、ぼくにやってくれたように、こまっている友だちには、やさしいことばをかけたたり、手つだいをしたりしてあげたいと思います。これからやさしい気もちを、友だちにかえしてあげられたらいいなと思っています。